

第9号

北見商工会議所青年部広報紙



トライ



第16回北海道ブロック大会

2003年

12月

皆様、大変ごくろう
さまでした



北見商工会議所青年部事務局

〒090-8710 北見市北3条東1丁目 北見経済センター内 TEL(0157)23-4111・FAX(0157)22-2282
E-mail syokokac@okhotsk.or.jp URL <http://www.kitami-yeg.com>

北見商工会議所青年部

会長 舛川 誠



第16回北海道ブロック大会北見大会は9月19・20・21日の日程を経て無事終了することが出来ました。全道・全国各地からお集まりいただいたYEGの皆様、そして関係各位のご支援ご協力にまずは心から感謝を申し上げます。

本大会では『絆々今、真の交流を求めて』を開催地テーマとし、創立3年目の当単会が精一杯の力を振り絞って、明日のYEGを切り拓くパワーをそれぞれの地域に・企業に持ち帰っていただくために、そしてご参加いただいた皆様の心に残る大会を目指し、ひとつひとつの事業に思いを込め、こだわりながら準備を重ねて参りました。

北見YEGにとってこの大会主管は、創立間もない単会の会員同士が「もつと語り合い」「もつと語り合い」のできるこの上ない機会と捉え、全会員が心一つにして「今までのないブロック大会を創り上げる」という大きな目標に向かい進み、それぞれの立場・役割で携わる事で、成し遂げた時に得られる達成感と熱い感動を共有したいという思いがありました。

「我々はきつと数えきれないほどのものを得たことと思いますし、個人として組織としてレベルアップした北見YEGの姿が今あると確信しております。その事をこれからの北見YEG活動の糧とし、確実に新たな一歩を歩みださなければなりません。」

そして本大会は、私にとりましても本当に意味あるものとなり、一生涯の財産となりました。開催期間中、会長として多くの場面をいただいたことは勿論のこと、大会に費やす時間と比例してYEGに対する考え方も深まり、また広い意味で様々なものに対する考え方を学ぶことができたような気がしております。

大会が終了し、若干の虚脱感はあるものの、それにまさる達成感と安堵感が私の身と心を占めております。会長として任期中、まだまだ気を緩めることなく精一杯頑張ることが、今まで支えていただいたメンバーに対する恩返しであると思っております。

最後になりますが、一年数ヶ月におよぶ大会に係る多くのドラマも紙面の関係から語ることは叶いませんが、思い浮かべますと、皆さんに本当によくやっていただいた、苦勞をおかけしたという思いに今更ながら胸が熱くなります。誰より苦勞をされ今大会を成功に導かれた北見YEG初代会長鈴木達裕実行委員長、一番身近なところで私を支えてくれた西村・竹内・松原副実行委員長、お世話になりました全メンバーに改めて心より感謝とお礼を申し上げます。皆さん本当にありがとうございました。打ち上げでのお酒の味は生涯忘れません。

『本当に、ありがとうございました。心から感謝いたします。』

鈴木達裕



昨年11月12日に開催された臨時総会にて、実行委員長にご承認をいただいたから本番当日の9月19日・21日までの約10ヶ月、北見YEGメンバー全員と共に「感動」と「自信」を分かち合いたい一心で突き進んでまいりました。

私自身の経験の中で、「苦勞すればするほど感動や自信の大きさも膨れ上がる」と思いながらも、時が立てば立つほど、論議すればするほど「感動」と「自信」が少しずつ速さかかって行くような気がした時期もありました。

総論賛成・各論反対という言葉がありましたが、総論(全体の動き)最悪・各論(各部会の動き)良好という状況であった事が多かったような気がします。

この原因は、紛れもなく私自身実行委員長の「ちから不足」であります。

しかしながら本番当日の3日間の全体の動きは、目を疑うほどのチームワーク・リーダーシップ・フォロースhipが発揮され、全ての事業を計画以上にこなしていただきました。

この要因は、紛れもなくメンバー全員の「ちから」でありました。大会の良し悪しは我々が決める

事ではなく、参加いただいた全道・全国のメンバーが評価するべきものであります。現段階で聞く所によると「北見大会は最高の大会であった」とお褒めの言葉をいただいているようです。

そして何より、大会終了後の直会では、我々が求めた「感動」と「自信」がメンバー全員に漲っております。

私はその時「我々が求めたものは：これだ！」と思えました。

過去に様々な状況があったにせよ、メンバーひとり一人の「ちから」が今現在(直会)の状況を創っているのだと：

ブロック大会を経験させていた私に、このような機会を与えていただいた舛川会長並びにメンバー67名に心より感謝とお礼を申し上げます。

ありがとうございます。また、大変無礼な言動等があった事に対して心からお詫びを申し上げますと共に、正副部会長を始めとする全てのメンバーに心の底から感謝申し上げます。

本当に：本当に：ありがとうございます。

今現在、過去にあったブロック大会は終了し、また明日が訪れようとしています。

大変僥越であります。もう一言：メンバーの皆さんにはブロック大会で得た様々な事を忘れる事なく、今までの以上に明日の北見YEGにこの経験を吹き込んでいただけてますよう、心よりお願い申し上げます。

プロック大会に関する全ての活動を終了させていただきます。お礼とさせていただきます。

皆さん、明日の北見YEGのために：もう一頑張りしようではありませんか！



エヌワン部会 長南 進一



プロック大会においてエヌワン部会が担当したのは、大きく「YEGナンバーワン決定戦」、「式典・記念講演」、「卒業式」の三事業でした。「ナンバーワン決定戦」と「卒業式」は従来のプロック大会にはない新しい企画でもあり、果たして上手くいくのだろうかと大いに心配していたのですが、結果は大成功。「絆」という大会テーマの一翼を担えたことを胸をなで下ろしています。

特に「ナンバーワン決定戦」は「当然、ドタキャンが出るだろう」と予想していたのになんと100%の出席率。単なるエクスカージョンとしてではなく、「3競技を通して全道No.1単会を決定しよう」という当初のコンセプトが各単会内の結束（絆）を高めさせた結果を生んだといえます。事前の各単会訪問でこの趣旨を、皆さんに大いにお礼を申し上げなくてはなりません。

卒業記念品として作成した「絆のほり」は真つ青な北見の秋空に映え、美しくはためいていました。卒業予定の皆さんから「こんなことしてもらって、ありがとう」と言われた時、全ての疲れが抜けていったような気がしました。

あらためて、エヌワン部会の皆さん、YEGメンバーの全員に「ありがとう」を申し上げます。

スパーク部会 竹内 稔昌



プロック大会が終わり、早くも2ヶ月が過ぎ、仕事のペースがやっと戻り始めた今日このごろ、部会の会員には至らない部長で、大変ご迷惑を掛けたと、感じております。

各小部会では、大懇親会当日、ステージ担当メンバー、食材担当メンバー、物産展担当メンバー初めての屋外パーティーで、当日終了までは大変でしたが、みんなの思いが表現出来たと、感じています。北見ナイトでは、当日登録が増え担当メンバーには、素晴らしい対応して頂きまことに有難うございました。

翌日、卒業式、さよならランチを部会全員で、大会最後の行事でおもてなしが出来たことを、全道YEGメンバーがとても喜んで帰って頂いたと思っております。

大変至らない部長で会員にはご迷惑を掛けた事に反省しております。

部会メンバーには、本当にご苦労さまでした。

シヨム二部会 西村 清一



「感謝」
プロック大会を終えて

プロック大会が無事終了したことをまずもって皆さんに感謝とお礼申し上げます。

当部会は、総務系・庶務系といった所謂、「なんでも屋」という事もあり、ついた部会名が「シヨム二部会」。表舞台にはなかなか出れず、スポットライトを照らして貰うなどという事は、もつてのほか、実行委員会立ち上げから大会終了後まで常に裏舞台で地味に作業を進めてきました。シヨム二部会のメンバーには、本当に長きに渡り、ご苦労をお掛けしました。しかし、地味で確実な作業を求められるシヨム二部会がなくして大会の成功はありえない。そんな気概をもってそれぞれの役割をメンパー全員が全ういただいたと確信しております。一生懸命頑張った数だけ感動があったと思います。そして沢山の感動を共有できたと思います。地味な作業ばかりの6ヶ月間で、部会メンパーのおかげで不肖西村、部長を全うさせていただきました。本当にありがとうございました。

例会報告

八・九月例会



8月例会は、本番20日前のプロック大会実行委員会全体会議という位置づけであり、本来であれば各個人の行動スケジュールを説明し、残りの日数は細かく迎えるという予定でした。しかし、各部会からの進捗状況の発表、その後各部会に分かれたの会議で終了してしまいました。直会では、大会の各部門の担当責任者から一言意気込みを述べていただき、より一層責任感をもって大会に向かう気持ちを高めていただけたと思います。その後本番を迎えるまでの、20日間の間に会長、実行委員長の指導力もさることながら会員の皆様が本来の力を十二分に発揮し、懸案事項をバツバツと片付け大会を無事終了する事が出来ました。

9月例会終了後の直会の時の皆さんの姿が、会長並びに実行委員長が求めていた姿であり大会の経験が必ずや明日の北見YEGの力となる事を確信いたしました。

松原 英行



新入会員紹介



随行一臣

この度入会させて頂く事になりました。随行一臣と申します。東急観光北見支店に勤めて今年

で12年目になり、仕事では斜網ブロックを駆け回り主に学校と自治体のセールスを担当しております。

10月、11月は高校の修学旅行で京都、広島方面へ添乗しておりました。自分では、まだ若いつもりで張り切っておりましたがジェネレーションギャップを多く感じるようになり淋しい思いをしております。

支店で勤務している時も、いつも家に帰る時間が遅くなりますが大好きな晩酌は欠かせません。もっぱら焼酎にはまっております。添乗先で購入した石垣島泡盛なんかは最高にうまい！ですね。焼酎党の方には是非お勧めしたいです。



山上裕司

北見商工会議所青年部先輩諸兄の皆様、この度入会のご承認をいただきまして有限会社イノベリション、山上裕司です。

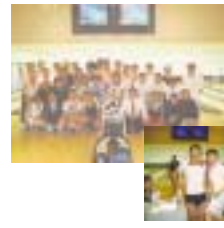
あらためまして、自己紹介をさせていただきます。昨年、多くの皆様のご理解のもと、(社)北見青年会議所を無事卒業させていただきました。そして、その最終年度にて、日本JICにスタッフとして出向することができ、その活動を通じて、あらためて北見が自分の存在の根本にあることを深く知らされた次第です。さて、私の事業は、マネジメントシステムの審査・評価や構築に関わるコンサルティングを提供しています。

簡単に言えば、企業における「良い仕組み」が「良い結果」につながり「強い会社」を生むという考えのもと、(社)社会経済生産性本部による日本経営品質評価基準、ISO9001規格、ISMS情報セキュリティ規格を活用した、組織のより良い仕組みの構築を支援します。この結果として、企業の基本的戦略の見直し、事業の仕組み品質の向上、ISO9001認証、企業IT化の推進や情報セキュリティの仕組みを実現させます。現在、関東圏と北見を往復する日々を送っており、なかなか時間を先輩諸兄の皆様と共有することができない自分もありません。しかしながら、自分も北見という街の今と未来に対して自分ができる貢献をする責務があると考え、この度入会の申請をさせていただいた次第です。まだまだ、若輩ものです。あらためまして、皆様の叱咤激励をお願い申し上げます。入会のご承認への感謝とご挨拶とさせていただきます。



例会報告

十月例会 親睦委員会



全道大会を終えた10月、大会により培われた会員相互のメンバーシップをより確かなものにする為「ボーリング大会」

を参加35名にて行いました。内容としては「学芸会の季節」をイメージし、近藤君・岸本君司会による「Dr.コロン」(ドクター診療所)と銘打った寸劇をベースにぎやかに進行いたしました。1ゲーム目は普通にプレイしていただき、そして2ゲーム目に入るとき漁労長(稲村君)が登場し「コスプレボーリング」のくじ引きが行われました。これは「女子高生・ナース・アラブ人等々」の予め用意された衣裳をくじ引きにより決定し、これらを着てプレイしていただくというものです。一般のお客様から見ればちょっと(変な集団)に思われたかも知れませんが、全道大会で燃え尽き(?)若干の脱力感が感じられた北見YEGにとって、よい刺激となったのではないかと思います。

ボーリングの結果(敬称略)

- 団体優勝：西村・松原・竹内・宮澤
- チーム
- 団体2位：宮樫・平井・渡辺・富田
- チーム
- 団体3位：中川・飯坂・川島・酒井
- チーム
- 個人1位：松原(アベレージ17)
- 個人2位：紺野(アベレージ15)
- 個人3位：塩野(アベレージ15)

親睦委員会委員長 中川 勝一

第23回全国大会米子大会に参加して



「とつとろ」の全国大会米子大会に外川会長を始めとする8名のメンバーで参加してきました。

女満別空港を出発し米子に着いたのは夕暮れを迎える頃でしたが、まもなく大懇親会が始まる時間でしたので会場の米子コンベンションセンター「ビッグシップ」に向かうとそこには既に帯広のメンバーが次年度全国大会のPRの為、のぼりを立て整列して参加者を迎えている場を目にすると同じ北海道いや道東のメンバーとしてうれしくも頼もしく感じました。大懇親会はダンサー登場のオープニングで開会し(北見のダンサーの方がかつこよかった)、進行はプロック大会とほぼ同じ内容で進められ、懇親会場は各フロアによって料理が異なるバリエーションにとんだものが用意され、それぞれを愉しむことが出来る内容でした。そして、夜の米子を楽しむ時間になり街へ繰り出すと、米子のメンバーが隅々に配置してお店を丁寧

に案内している姿は、北見大会北見ナイトの影響を受けたのかも知れませんが、北見のメンバーは明日も早い初日を終わりました。(M事務局長とS事務局員は楽しんでようです) 2日目記念式典では進行もプロック大会と同じで挨拶する人の数が多いくらいな感じで進み、次年度全国大会帯広大会のPRでは北見のメンバーも登壇して全国の会員に参加を呼びかけました。続いて記念講演は筑紫哲也氏の講演でしたが、北見のメンバーは高知のエクスカッション参加の為、途中で退席しバスに乗り込み山陰を横断する旅へ向かい、瀬戸大橋を渡り5時間ほどかけて高知に到着し、大懇親会を迎えました。日本でダウン)そして帰路につく翌日は、さすがに疲れたのか(高知のメンバーもかなり疲れている様子)観光名所もそこそこ高知空港をあとにして、北見に着いた時は雪が降っている光景を見て、つい先ほどまでエアコンを効かせたバスで移動していたのにと遠くに行っていた実感が湧きました。全国大会に参加して感じたことは来年の全国大会が同じ道東の帯広で開催されることは大変ラッキーだと思います。

是非、来年の帯広大会は多くのメンバーで参加しましょう。

親睦委員会 平井 良紀

編集後記

お忙しい中、原稿ありがとうございました。

総務広報委員 市川 隆博

次号 第10号は平成十六年三月発行です。

TRYに載せて欲しい記事をお持ちの方は、お気軽に総務広報委員会まで、お知らせください。